

2020にむけて 重要性を増す役割とは

「東日本エリアの玄関口」

さいたま市の 底力

「鉄道のまち」さいたま市大宮のアイコン的な存在である「鉄道博物館」が、2017年10月に設立10周年を迎えた。大宮およびさいたま市の発展には鉄道とは切っても切れない関係がある。そして、これからも東日本エリアの玄関口として、その存在感はさらに増していくことが予想される。拡大していく「さいたま市」の役割について、JR東日本会長で東北観光推進機構会長も務める清野智氏とさいたま市長の清水勇人氏に、鉄道博物館で話を聞いた。
制作・東洋経済企画広告制作チーム

Business
ASPECT

さいたま市

さいたま市を入り口に 東日本全域の 連携・創生へ

— 清野さんは東北観光推進機構会長として地方創生のために、こういった取り組みを考えていますか。

清野 少子高齢化に伴い、東北地方でも地方創生は喫緊の課題となっています。東北新幹線の全線開通もあって東北各地へは以前より格段にアクセスしやすくなりましたが、東北は広く、

その広いエリアの中で観光コンテンツは点在している状況です。現在、拡大するインバウンド需要の取り込みが各地で叫ばれています。東北6県への訪日観光客のシェアは日本全体のわずかに1%程度に過ぎません。

東北の魅力アピールするには、点ではなく面で訴求する必要があります。そのため、東北観光推進機構では東北広域での観光振興の推進役を担っています。「オール東北」体制でスクラ

ムをしっかりと組み、観光振興を通じた地域活性化の効果を最大化するためのプロモーションや東北への誘客強化、受入れ体制の整備と拡充などの取組みを積極的に行っています。

一方で、さいたま市は東北地方との連携に、どのように取り組んでいるのでしょうか。

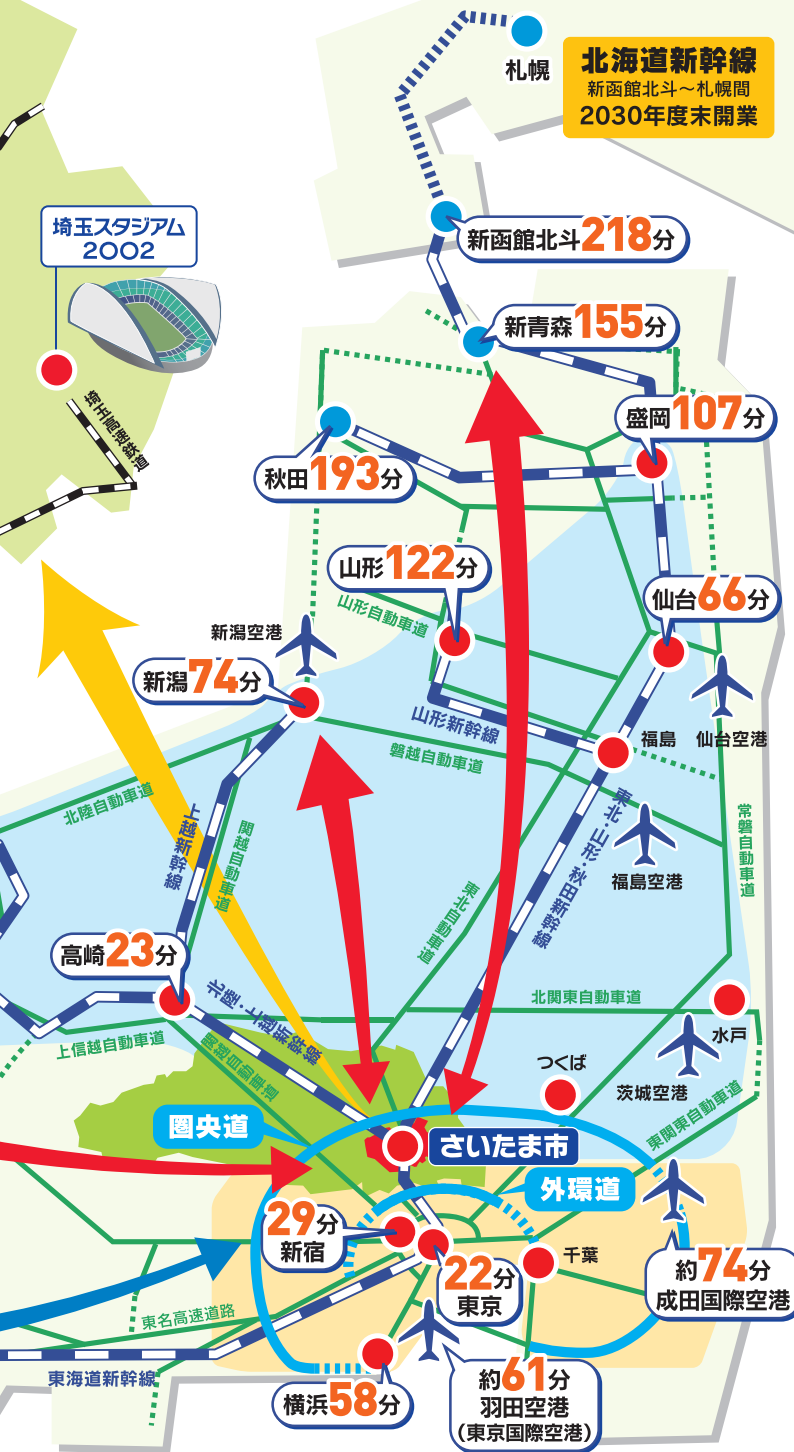
口という立地優位性を活かし、東日本の各自治体と連携すべく、2015年から「東日本連携・創生フォーラム」というものを開催しています。東日本の22都市が参加し、東北地方からは、青森市・八戸市・盛岡市・仙台市・秋田市・山形市・福島市・郡山市の8都市が参加しています。その主な目的としては、①物産、文化、祭、イベントによる地域資源の相互活用と交流、②交流・観光客誘致に向けた共

清水 さいたま市は首都圏の一角であり、その強みの一つが交通の要衝であることです。この東日本の玄関

同発信と情報運用、③自治体、経済団体等との顔の見える関係構築、④地域交流によるビジネスチャンスの創出支援策の実施などが挙げられます。また、地方創生推進交付金を活用し、地域間ビジネスの強化や連携を図っており、百貨店などの軒先で大宮から新幹線につながる自治体の特産品を販売する「軒先マルシェ」、東日本連携推進協議会などを中心としたビジネスマッチングの推進をしたりするなど、行政と民間の観光連携による新たな地域資源の発掘・開発も行っています。

— 首都圏広域地方計画における、さいたま市の位置づけについてはどうお考えですか。

清水 計画では、西日本の玄関口「品川」に対し、東日本の玄関口として「大宮」が位置づけられています。大宮は、東日本の対流拠点として、広域観光ルート構築のための玄関口機能や首都直下地震の防災時には首都圏機能のバックアップの最前線ともなります。そうし



● 約2時間でアクセス可能な都市
● 約2時間でアクセス可能な商圏 (以北)
● 約2時間でアクセス可能な商圏 (首都圏)

「東日本エリアの玄関口」

さいたま市の底力



さいたま市長

清水 勇人(しみず はやと)

1962年埼玉県生まれ。2003年埼玉県議会議員就任、2009年より現職(現在3期目)



東日本旅客鉄道取締役会長

清野 智(せいの さとし)

1947年宮城県生まれ。1970年国鉄入社。1987年分割民営化によりJR東日本入社。2006年社長就任、2012年より現職。2015年から東北観光推進機構会長も務める

2020にむけて 東日本の観光・ イベントの拠点に

JR東日本の乗車人員が多い駅

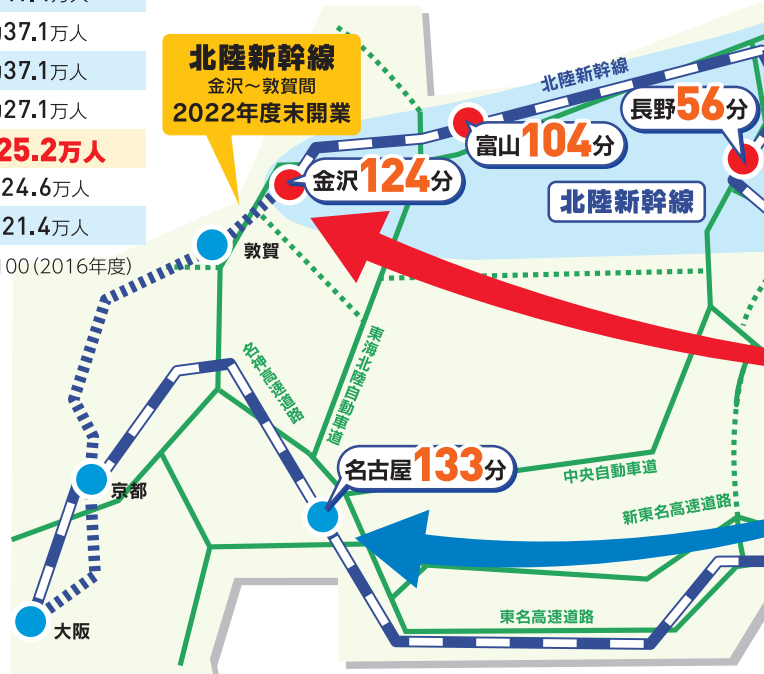
JR東日本 1日平均乗車人員

順位	駅名	乗車人員(万人)
1	新宿	約76.9万人
2	池袋	約55.9万人
3	東京	約43.9万人
4	横浜	約41.4万人
5	品川	約37.1万人
6	渋谷	約37.1万人
7	新橋	約27.1万人
8	大宮	約25.2万人
9	秋葉原	約24.6万人
10	北千住	約21.4万人

出典: JR東日本駅別乗車人員ベスト100(2016年度)



広域的ビジネス拠点として
更なる発展!



※所要時間は目安です。新幹線の利用を含みます。

た東日本の玄関口としての特徴を活かし、現在「大宮グランドセントラルステーション化構想」を検討中です。そのためにもJR東日本様とさまざまなかたちで連携させていただくことが必要不可欠だと思っています。

——さいたま市の大宮が東日本の対流拠点として位置づけられたことについて、JR東日本会長としてどうお考えでしょうか。

清野 JR大宮駅は、湘南新宿ラインや上野東京ラインなど、在来線が多数乗り入

れ、また北海道・東北、秋田、山形、上越、北陸新幹線の結節点として、1日あたりの乗車人員も約25万人と当社管内で8位の地位にあり大変重要な駅と位置づけています。大宮の地が、東日本エリアの玄関口と定義されたことで、これからさいたま市と北海道、東北方面や新潟、北陸方面などで、それぞれの地域との交流が活性化されていくはず。私たちは今後も鉄道の結節点である大宮駅のポテンシャルをさらに高めるための施策を行っていきたくと考えています。

ビジネスや観光需要を さいたま市から 東日本へ誘導

——さいたま市は「東日本連携・創生フォーラム」の開催地として、東日本の各地域と、どのような連携をお考えでしょうか。

清水 連携事業としては、「東日本連携広域周遊ルート」の策定により共同PRの実施や民間事業者に旅行商品の造成を促進するほか、

政令指定都市幸福度ランキング

47指標 総合ラン キング	政令指定都市	基本指標、5分野別ランキング					
		基本指標	健康分野	文化分野	仕事分野	生活分野	教育分野
1	さいたま市	2	6	10	5	9	13
2	浜松市	4	2	13	3	7	5
3	千葉市	9	3	5	10	4	9
4	川崎市	1	9	9	4	12	16
5	横浜市	3	10	6	8	3	15
6	名古屋市	11	8	7	1	13	12
7	京都市	16	16	1	14	18	2
8	広島市	15	18	8	2	15	3
9	新潟市	19	11	20	7	1	1
10	静岡市	8	13	15	6	2	4

出典：『全47都道府県幸福度ランキング2016年版』※ジャンル別に順位を表記

(仮称)東日本連携支援センターの整備により、東日本の各地域のシテイプロモーション機能やビジネスマッチング機能を備えた「東日本のプラットフォーム」の構築を目指していきます。また、「BIZ S A I T A M A(さいたま市産業交流展)」の開催により、東日本各地域から企業や大学、支援機関を招致し、東日本のビジネス対流拠点としてのビジネスマッチングを創出

していきます。行政と民間が一緒になって経済交流を活発化させることで、東日本域内に好循環を生みだし、東日本が一体となって地方創生に取り組んでいきます。そのためには、さいたま市が中心となって、東日本の各都市や企業間をつなぐ役割を担っていきたくと考えています。東日本全体が、更なる成長・発展できる環境が整いつつあるさいたま市を、広域ビジネス拠点として、是非ご活用いただきたいと思います。

——東日本エリアの各地域が互いにつながっていくために、JR東日本としてのお考えをお聞かせください。

清野 これからは、所謂グローバルルートとして西日本エリアに集中する訪日観光客の需要をいかに東北へ誘引するかがポイントになります。そのため、都心へのアクセス利便性を含めた東日本の交通結節点であるさいたま市を宿泊拠点とすれば、東京一極集中を分散化することができます。こ

うした取組をベースに、東北、上越、信越へ結ぶラインの中にも組み込むことで、さいたま市が東日本エリアをカバーする広域観光ルートの拠点となることを期待しています。

——2020年に向けて、さいたま市が注力していく取り組みとは何でしょうか。

清水 「さいたまスーパーアリーナ」ではバスケットボールが予選から決勝までのすべての試合、「埼玉スタジアム2002」ではサッカーの予選が開催されることで、大会期間中には国内や海外も含め、80万人超の来訪者があると見込んでいます。そのため、鉄道以外でもさいたま新都心の東側にバスターミナルを設置するほか、成田・羽田空港に加え茨城、仙台、新潟などの地方空港とのアクセス網も拡げ、東日本の拠点としての強化を目指していきます。

——JR東日本としては、どのような取り組みを行っていくとお考えですか。

清野 東北被災エリアの復興や地域の活性化、またバ

リアフリーの推進、お困りのお客様に対する「声かけ・サポート運動」をいっそう強化していきます。大会開催地となる東日本地域を事業エリアに持つ公共交通事業者として、大会気運の醸成と経済の活性化に貢献していきます。

——今後、さいたま市に期待する役割とは何でしょうか。

清野 さいたま市は北関東一帯を後背地として擁しており、大宮駅はビジネス利用だけでなく、主婦や学生といった幅広い層のお客様がご利用されており、情報が信頼力にも優れています。今後も交通の結節点にとどまらず、東日本の玄関口として、地域間交流など広域連携の拠点として利便性の高い都市になってほしいと思っています。

——さいたま市の今後の取組みについてはいかがですか。

清水 さいたま市は指定都市でもトップレベルの財政の健全性を維持しながら、対前年人口増加率と幸福度ランキングでは1位、この10年間(2006～201

5年)の企業本社の転入超過数でも3位となるなど成長力の高い都市となりました。観光においても、世界的に有名な「大宮益裁」や集客力のある「鉄道博物館」などに多くの人が訪れています。さらに、5回目を迎えた「ツール・ド・フランス」や、3回目の開催となる「さいたま国際マラソン」を通じて、「スポーツのまちさいたま市」を広く国内外に発信していきたいです。これからも多くの方々に観光やビジネスにおける「東日本の玄関口」としてのさいたま市をぜひ活用していただきたいと思います。

